

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 茨木市立児童発達支援センターあけぼの学園

公表日 令和8年 4月 30日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	35	6	机の配置を変えたり、パーティションで仕切ったりしながら限られたスペースを有効に活用できるようにしています。	スペースを広げることは難しいですが、今後も構造化の工夫をしています。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	36	5	国の配置基準以上に職員を配置しています。活動内容に合わせて安全に活動できるよう優先順位をつけて子ども全体に関わる職員をクラスに配置しています。	こどもの活動が充実するよう、職員の専門性を高め、職員間で協力して支援してまいります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	34	7	構造化を行いながらこどもにとってわかりやすい環境調整を心がけています。安全に過ごせるよう床の改修工事等に年次計画を立てて、取り組んでいます。	こどもたちの様子に合わせた環境調整ができるよう、研修を行い、専門性を高めてまいります。また、バリアフリー化が進んでいない箇所等に関しましては、今後取り組めるよう検討してまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	35	6	建物の老朽化はありますが、少しでも清潔に、気持ちよく施設利用ができるよう清掃に取り組んでいます。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	33	8	個別の部屋はありませんが、空き部屋の活用やパーティション等を使いながら個別スペースを作って対応しています。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	40	1	各種年間計画を作成し、定期的な職員会議や年度末の会議で評価を行い、必要に応じて改善に取り組んでいます。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	41	0	保護者会との打ち合わせの機会を設けたり、随時、問い合わせや相談に応じています。	今後も保護者のニーズを大切にしながら取り組んでまいります。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	40	1	個別面談の時間を設けるとともに職員会議や朝礼等を通じて意見を出してもらえるような機会を作っています。	意見等を出しやすい環境や関係づくりを行い、提出された意見について検討しながら進めてまいります。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	37	4	有識者から取り組みに対する意見をお伺いする機会を設けたり、公開保育や研修等で来園された方との意見交換会を行い、取り組みを考える機会としています。	
10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	41	0	外部、内部講師による研修や伝達研修、他事業所の施設見学などを行っています。	今後も従業者の意見を取り入れながら研修計画を作成してまいります。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	41	0		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	40	1	行動観察や発達検査等の結果と保護者アンケートを踏まえ、児童発達管理責任者、心理士や言語聴覚士、作業療法士、クラス担当の保育士が意見交換しながら支援計画を作成しています。	今後もアセスメント力向上や子どもひとりひとりに応じた、より適切な目標設定を行えることを目指して研修やケース会議等を計画してまいります。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	40	1		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	39	2		統一した支援実施に向けて、クラス担任以外の職員も交えて話し合える機会を作るよう業務の優先順位を考えてまいります。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	40	1	発達検査や言語検査、行動観察により、こどもの行動の理由を考えながら取り組んでいます。	標準化されたツールの活用に向けて検討してまいります。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	41	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	41	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	40	1	活動の実践報告をする機会をったり、職員会議などで活動に関する情報共有を行う機会を持っています。	今後も研修等を受けながらこどもの興味関心に合わせた活動が展開できるようにしてまいります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	41	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	40	1	バス添乗や職員会議等で担当職員が揃わず、打ち合わせや振り返りが不十分なこともありますが、通園バス到着までの時間を活用しながら打ち合わせや振り返りを行っています。	時間を有効活用できるよう、会議の持ち方などを検討し、日々の支援の振り返りの時間が確保できるよう考えてまいります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	34	7		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	40	1	支援の日報をつけながら振り返りをしています。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	40	1		半期ごとの定期的なモニタリングだけでなく、必要に応じて保護者と確認、共有を行いながら進めてまいります。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	41	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	41	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	41	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	41	0		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	41	0		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	41	0	大阪府地域発達支援事業所等サポート事業の活用により定期的に助言を受けたり、外部講師を招いて研修の機会を作っています。	今後も外部講師による研修やスーパービジョン、内部講師による研修、職員同士がアドバイスしあいながら、より専門性を高めていけるよう努めてまいります。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	41	0		
	31	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	40	1	連絡帳や電話、手紙、メールなどを通してやり取りをし、各種懇談会、参観、あるいは相談できる機会を設けています。	今後も保護者とやりとりしながら、お子さまのこについて情報共有しやすい環境づくりに努めてまいります。
32	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	41	0			

保護者への説明等	33	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	41	0	運営に関することは重要事項説明書で説明しております。支援プログラムにつきましてはプリントの配付、ホームページ記載等を行っております。	
	34	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	41	0		
	35	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	41	0		
	36	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	41	0		
	37	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	39	2	必要に応じて保護者会と意見交換を行い、保護者会活動に職員が参加しています。また、きょうだいの一緒に参加できる行事を設けています。	保護者会との連携を大切にしていくと同時に、園に通うこどもと保護者だけでなく、きょうだいも一緒に参加できる行事を実施してまいります。
	38	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	41	0		
	39	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	40	1	クラス便りや園便り、保健便り、子育てに関する読み物などを定期的に配付しています。また、ホームページも定期的に更新しています。	今後も定期的に情報提供を行ってまいります。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	41	0		
	41	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	41	0		
非常時等の対応	42	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	24	15	地域住民の方を招待するような行事はありませんが、市内の障害児通所支援事業所等の見学や職場体験実習等を受け入れています。	今後も必要に応じて関係機関の見学等を受け入れながら、地域の機関と連携して事業運営を行ってまいります。
	43	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	40	1	年間計画を作成し、避難訓練を毎月実施するとともに、緊急対応訓練等も実施しております。	今後も継続して実施してまいります。
	44	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	40	1	災害に備え、備用品の準備や緊急連絡メールの配信テストなどを行っております。	今後も継続して実施してまいります。
	45	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	41	0		
	46	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	41	0		
	47	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	41	0		
	48	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	40	1	入園時に説明したり、連絡帳等でお伝えしています。令和7年度は一度だけですがクラスだよりで避難訓練の様子をお伝えしました。	
	49	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	41	0		
	50	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	40	1	虐待防止委員会の開催や、業務振り返りシートの記入などを行い、こどもへの関わりについて考え、意識する機会にしています。	外部講師による研修等も計画してまいります。
	51	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	38	3	予測される場合、支援計画作成時に説明しています。また、活動中に身体拘束をせざるを得ない状況が発生した場合には速やかに保護者に連絡し情報共有を図っています。	今後も日頃の支援方法の検討を行いながら、説明も丁寧にできるように心がけてまいります。